

## H23- 問題 12

工程管理に使われる工程表の種類と特徴に関する次の記述のうち、  
 適当でないものはどれか。

- (1) ネットワーク式工程表は、ダム工事など大型で複雑な工事で精度の高い工程計画、管理を行うために用いられることが多く、工程遅延の処置をする場合に、どの作業をどの程度早めたらよいかを的確に判断することができる。
- (2) 横線式工程表(バーチャート式工程表)は、最も一般的に用いられており、各作業の進捗度合いはよくわかるが、各作業に必要な日数はわからず、工事に影響を与える作業がどれであるかも不明である。
- (3) 座標式工程表は、トンネル工事など路線に沿った工事では工事内容を確実に示すことができるが、平面的に広がりのある工事において、各工種との相互関係を明確に示すことができにくいことがある。
- (4) 斜線式工程表は、トンネル工事や地下鉄工事などによく用いられるが、予定と実績との差を間接的に把握できる方法であり、作業内容、作業位置、作業時期、など進捗状況がわかりにくい。

### ポイント解説

斜線式、バーチャート式は予定と実績の差は明確

正解(2)&(4)

- (2) **誤** 横線式工程表(バーチャート式工程表)は、最も一般的に用いられており、各作業に必要な日数は判明するが、各作業の進捗度合いは漠然としており、工事に影響を与える作業がどれであるかは不明である。横線式工程表(ガントチャート式工程表)は、各作業の進捗度合いはよくわかるが、各作業に必要な日数はわからず、工事に影響を与える作業がどれであるかも不明である。よって、(2)は不適当。
- (4) **誤** 斜線式工程表は、区間の定まっているトンネル工事や地下鉄工事に適用され、作業内容、作業位置、作業時期が明確で、実績と予定を並べ表示するので、その差は直接把握できる。よって、(4)は不適当。

### 重要項目

- 横線式工程表：ガントチャート式工程表とバーチャート式工程表に分類される。
- ガントチャート式工程表：各作業の進捗率は判明するが、各作業に必要な日数は不明である。
- バーチャート式工程表：各作業に必要な日数が判明する。

## H22- 問題 12

工事の各種工程表とその特徴を表す事項に関して次のうち、  
 適当でないものはどれか。

工程表 \ 事項	作業の手順	作業に必要な日数	作業の進行の度合い	工期に影響する作業
バーチャート	判明	判明	不明	判明
ガントチャート	不明	不明	判明	不明
曲線式	不明	不明	判明	不明
ネットワーク	判明	判明	判明	判明

- (1) バーチャート
- (2) ガントチャート
- (3) 曲線式
- (4) ネットワーク

- (1) **誤** バーチャート工程表では、工期に影響する作業は不明である。また、作業の進行の度合いは、明確には判明しないが、漠然となら判明する。よって、(1)は不適当。